人口減少社会における医療機関の未来と医療従事者の役割

臨床検査技師のこれからを考える

◎神戸 翼[1)]
永生総合研究所[1)]

日本における人口減少という社会変化は、特に地方部では大きな影響を及ぼしている。働き世代や年少者の減少はもちろん、既に高齢者も減少する地域が多数存在し、医療機関としてはこの問題に既に直面している施設も多い。演者の調べでは、これからの 20 年で京都府内で起きる人口変化は、0-14 歳が約 79%に、15-64 歳は 77%と減少する。一方で、65 歳以上の高齢者は約 108%と増加することを想定すると、医療の需給バランスが大きく変化し、これまで以上に医療機関とそこで働く医療従事者への期待が高まることが予想される。こうした人口構造の変化は、京都府だけに限らず関西圏の全ての地域において生じることである。そして、これらの人口構造の変化に加えて、具体的に入院医療、外来医療のニーズはどのように変化するのか、また臨床検査件数はどう変化するのか。養成校にはどのような影響を与え、新たな人材が育っていくのか。そして、日本全体で推し進められている制度・政策と社会的な価値観の変化、DX の潮流を見据えて、改めて医療機関の未来と医療従事者の役割を考える機会になればと考えている。地域、医療機関、医療従事者個人の well-being を目指すためのヒントを提供できれば幸いである。

病院経営戦略を支える臨床検査技師の役割と挑戦

◎佐藤 信浩[1)]
大阪赤十字病院[1)]

203X 年、検査室に人の姿はなく、AI とロボットが静かに検体を処理している。かつて、複数人が手作業で行っていた臨床検査業務は、AI が検査データを自動判別し、技師はその精度確認と臨床的妥当性の判断を担っている。高度な自動化と AI 支援のもと、臨床検査技師の役割は確実に変化していく。単なる作業者からデータ解析と診断支援の専門家へと、その再定義が進みつつある。

近年、AI・ロボット科学の進展は目覚ましく、身近な社会にも広く影響を及ぼしている。繰り返されるルーチンタスクや類似画像の検索を得意とする彼らは、臨床検査の分野においても、いかんなく威力を発揮し、我々の日常業務に変革をもたらす。第 5 次産業革命の推進や再生医療の発展により、臨床検査技師の存在そのものを危ぶむ声も聞かれる中、これを如何にしてチャンスに変えることができるか、変化への対応力が問われる。

少子高齢化の進行による労働人口の減少や医療費の削減など医療の崩壊が懸念される。これからの医療現場では、すべての医療職がそれぞれの専門性を活かせる効率的なマルチタスクが求められ、多職種連携によるチーム医療が不可欠となる。また、コンパニオン診断における遺伝子関連検査や慢性疾患の管理、健康寿命延伸のための検診受診者の増加など、臨床検査技師が中心的役割を担う分野の需要は益々増大し、臨床検査技師の活躍の場は拡大する。

科学技術の進展と法改正の追い風に乗り、患者のいる現場へ出向き、チーム医療へ参入する絶好の機会である。対人的な業務の担い手となり、患者に寄り添い、学会発表や認定資格の取得など、たゆまぬ自己研鑽で修得した高度な知識と柔軟なコミュニケーション力を以って診療効率の向上に貢献する。求められているものはなにかを常に模索し、チーム医療の一角を担い、信頼される存在となる。

多くの医療施設において経営状況は深刻で、慢性的なマンパワー不足に陥る中、如何にして未来への一歩を踏み出すか。変化する時勢を理解し、取り巻く状況を分析し、効果的な対応策を模索しなければならない。臨床検査技師が国民にとって不可欠な職種であり続けられるか。今、問われている。

連絡先：大阪赤十字病院　臨床検査科部　06-6774-5111